

2 頸椎損傷患者への訪問口腔ケアの一例

小林 梢¹, 金子 潤^{1,2}

明倫短期大学 ¹附属歯科診療所, ²歯科衛生士学科

keywords : 頸椎損傷患者, 歯科訪問診療, 訪問口腔ケア

はじめに

明倫短期大学附属歯科診療所では、身体不自由により歯科医院に通院できない高齢者・障がい者の口腔の健康管理を目的として積極的に歯科訪問診療を行っている。訪問先では歯科疾患の治療とともに、必要に応じて歯科衛生士による専門的口腔ケアも頻繁に行われる。多くの患者は要介護認定を受けた高齢者であり、家族や看護師等による日常の介助を受けているが、今回われわれが担当した症例は、交通事故による頸椎損傷で身体不自由となり、独居のため他者の介入が期待できない37歳女性患者である。

症 例

●患者：37歳女性，独居，10年前の交通事故による頸椎損傷のため首から下に重度の麻痺あり。H20年10月近隣の病院歯科より訪問口腔ケアの依頼。

●対応：毎月1回の歯科医師による診察と毎週1回の歯科衛生士による専門的訪問口腔ケア（PTC）の施行。

●術式（図1，2）：①手用スケーラーによる大まかな食渣，プラーク，歯石の除去。

②プロフィーブラシとメルサージュファイン（松風）による歯面研磨。

③歯間ブラシとデンタルフロス

による歯間部清掃。最後白歯遠心面はガーゼフロスで清掃。④プロフィーカップとコンクール・ジェルコートF（ウェルテック）またはフルオール・ゼリー（ビーブランド・メディコ・デンタル）による歯面と歯肉縁

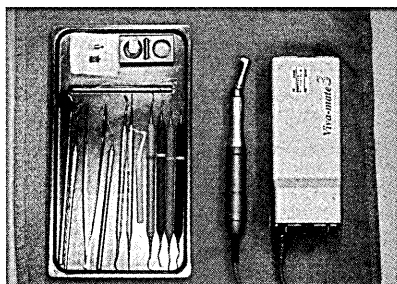


図1. 訪問口腔ケアに準備する器材

下のフッ化物応用。なお、毎月1回の歯科医師診察時には超音波スケーラーにて歯周ポケット内洗浄を行っている。

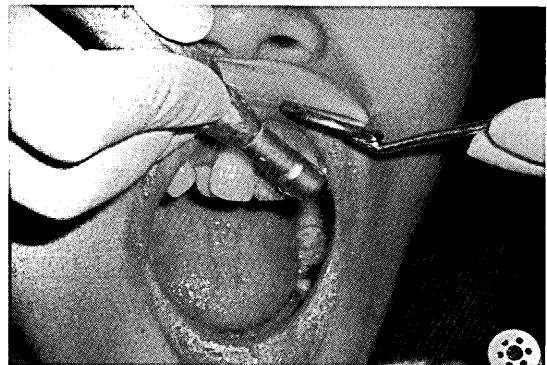


図2. PTC施術中

考 察

初診時から2年以上が経過したが、その間に齶蝕処置は1回、歯周組織検査においては歯周ポケット4mm以上の歯数が減少しており、訪問口腔ケアの効果は確実に表れていると思われる。何よりも患者本人の口腔衛生に対する意識の向上がみられ、プラークフリー時の爽快感を歯科衛生士と共に実感できている。今後は右下智歯周囲炎の経過に注意するとともに、齶蝕・歯周病の再発を防いでいきたいと考える。そして彼女の「食」の楽しみを支えていきたいと心から感じている。

まとめ

障がいを受容し積極的な生活を送っている患者さんでも、体力、時間、経済面などの事情により「best」な治療を追求することができない場合がある。このような症例では「better」な治療を考え提案し、認識を一致させることが大切だと感じた。歯科衛生士として患者さんが望んでいるゴールを共有できる知識と技術を研いでいきたいと実感している。